

Let's go with a family!

# 家族で行こう!

## 水と緑のふれあいスポット

広い空と緑豊かな木々、清らかな水の流りが代名詞ともいえる狛江の財産。  
身近な自然は、子どもたちの感性を刺激してくれる存在でもあります。  
今度の休日はぜひ家族で、狛江市内の水と緑のスポットを巡ってみませんか？



わいわい



### 前原公園(とんぼ池公園)

週末には親子連れがいっぱい!

自然環境を巧みに取り入れながら、防災施設機能を併せ持つ公園。多くの遊具や広い芝生、池や花壇など、一日中遊べそう。お弁当を広げたり、昆虫採集や草花の観察をしたりと、たくさんの方が集まっています。ベビースーツのあるトイレもあります。

狛江市西野川三丁目11番  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 05

### 岩戸川緑道(岩戸川せせらぎ)

やすらぎをくれる住宅街のオアシス

閑静な住宅街の緑道に続く、長さ126m、幅約1.5mのせせらぎで、散歩道として親しまれているスポット。近くには岩戸児童センターがあります。地元の子どもの憩いの場所として、夏は元気な声が響き、道行く人々を和ませています。

狛江市岩戸南一丁目から四丁目付近  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 61



### 西野川緑道(西野川せせらぎ)

かつて水車堀だった美しいせせらぎ

1990年に市内初の人工の「西野川せせらぎ」として整備され、清掃も行き届いた西野川のせせらぎ。周りには木が茂り、木陰での一時を楽しめます。昭和初期まで水車があり、粉を挽いて市民の生活を支えていた、歴史を感じる場所でもあります。

狛江市西野川一、二丁目付近  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 77

ちやぶちやぶ

### 小足立のびのび公園

狛江市における市民参加型公園の第一号

狛江市で初めて、市民が計画・設計・管理に参加して完成した公園。地域住民の発想が具現化され、地域防災などの住民活動が盛んになるきっかけとなりました。現在ではコミュニティガーデンに。こじんまりとし、静かな環境も魅力です。

狛江市西野川四丁目  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 59

野川では白サギや青サギ、川鶺にも出会えるよ!



### 野川

たくさんの野鳥が集まる自然の宝庫

一時環境汚染が心配された野川も、現在は清流の趣きを取り戻しました。魚を狙って、白サギや青サギ、川鶺、ときには鮮やかな色合いのカワセミなど、たくさんの鳥たちが集まり、自然観察に適しています。

狛江市西野川一、四丁目・東野川三、四丁目付近  
(問)042-330-1808  
(東京都北多摩南部建設事務所)

SPOT 04



SEASONAL VIEW

狛江の木めぐり花めぐり 四季折々

「白選」に選ばれたスポットには、市内でも有数の花の名所から知る人ぞ知る隠れた穴場など、四季を感じられる見どころが揃います。



「狛江市の木」  
イヌヨウ  
(1973年4月1日制定)



「狛江市の花」  
サザナ  
(1973年4月1日制定)

▲「根川さくら通り」 春



都内有数の桜並木で、春になると約900mに渡って桜が咲き乱れ、市民だけではなく、各地から訪れる見物客も楽しませています。桜が散る頃の花吹雪も圧巻の美しさ。

狛江市西和泉一、二丁目・中和泉四、五丁目付近  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 11

▲「多摩川土堤の桜」 春



多摩川が緩やかにカーブを描く絶好のロケーションは、毎年多くの花見客でにぎわいます。一時期悩まされたごみ問題も、少しずつ解消されてきました。マナーを守って散策を。

狛江市中和泉四丁目多摩川付近  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 39

▲「二色の秋(野川遊歩道)」 通年



野川遊歩道は、西野川一丁目から岩戸北一丁目まで、約2kmに渡って市北部を縦断しています。桜やツツジ、キンモクセイなどの植物が、季節や時間とともに色とりどりの風景を作ります。

狛江市西野川一、二、四丁目・東野川一、二丁目  
和泉本町一、二丁目・岩戸北一丁目付近  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 34

▲「巨大サボテン」 通年



民家の玄関先にあるサボテンで、その立派さから新聞でも紹介されました。6月から9月にかけて無数の花が咲く姿は圧巻。地域の人々に見守られ、コミュニティの形成にも役立っています。

狛江市東和泉一丁目9番

SPOT 52

▲「愛でる桜は美しい(六郷さくら通り)」 春



調布市境から中和泉一丁目までの「六郷さくら通り」には、約60本の立派な桜の木が並びます。付近には西河原自然公園、むいから民家園などがあり、散歩にぴったりです。

狛江市中和泉一、三、四丁目・元和泉一、二丁目付近  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 92

▲「メモリーロード(狛江第三中学校)」 春秋



狛江第三中学校のイチョウ並木。1973年の開校以来、多くの生徒を見送ってきました。夏の青葉も美しく、秋には銀杏を実らせ、在校生の募金活動にも一役買っています(17ページ参照)。

狛江市元和泉一丁目23番  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 24



▲「僕と私たちの竹林(狛江弁財天池特別緑地保全地区)」 通年

狛江駅北口に位置する特別緑地保全地区。駅前の再開発区域だったこの森は、約20年の市民運動を経て保全地区となりました。子どもたちに自然との関わり方を知ってもらおうと、管理する「狛江弁財天池特別緑地保全地区市民の会」により、竹の成長の観察会が開催されてきました。公募で選ばれた幼稚園・小学生数人によって、タケノコから竹への変化、新竹と旧竹の違いなどの見比べを行います。美しい竹林は身近な教材として、多くのことを教えてくれます。

狛江市元和泉一丁目7番  
(問)03-3489-7139  
(狛江弁財天池特別緑地保全地区市民の会事務局)

SPOT 56



## 狛江の春・夏・秋・冬 季節を楽しむ参加型イベントへ!

「狛江のまち 魅力百選」には、季節恒例の楽しみも選定されています。  
一度足を運べば、知らなかった狛江の表情が見えてくるかもしれません。



## 災害を忘れないまちへ

粕江の大水害として知られる1974年の多摩川決壊。  
あの被害を教訓として語り継ぐことを、忘れてはいけません。

DISASTER CONTROL

### 自然との共生とはどんなことか考えよう

粕江市猪方四丁目付近の多摩川河川敷自由ひろば内に、「多摩川決壊の碑」があります。1974年9月、多摩川堤防が決壊し、家屋19棟の流出という大きな被害をもたらしました。堤防決壊の原因は、二ヶ領宿河原堰左岸の激しい回流の浸食。これを解消するため、1999年、流量を調整する可動堰が作られ、同時にこの碑が建てられたのです。水の神さまを祀る「水神社」にもしのばれるように、多摩川の豊かな水源に恵まれる一方、洪水にも悩まされ続けてきた粕江。現在は強固な護岸や堰の整備が完了していますが、この豊かな地域資源は、同時に危険と隣合わせであることを忘れてはいけません。大切な粕江の財産である多摩川の自然といつまでも共生するため、市民一人ひとりが関心を持つべき場所なのです。



「多摩川決壊の碑」

二ヶ領宿河原堰を背に立つ碑。周囲にはベンチが設けられ、穏やかな川の流れを眺められます。

粕江市猪方四丁目付近(問)03-3430-1111  
(市役所(代表))

SPOT 46



「二ヶ領宿河原堰」

1999年現在の姿に造り替えられました。魚道も設置され、自然との調和を考えた構造となっています。

粕江市猪方四丁目付近(問)042-377-7403  
(国土交通省京浜河川事務所多摩出張所)

SPOT 70



「水神社」

889年六所宮(現・伊豆美神社)が鎮座した地に、多摩川の洪水を鎮めるため1597年に創建された社。

粕江市元和泉二丁目36番  
(問)03-3489-8105(伊豆美神社)

SPOT 43

### 豊かな水源を震災時に生かす取組み

市内で見かける、「震災時井戸水提供の家」と書かれた掲示物。これは粕江市が設けた制度で、井戸の所有者から自主的に申し出てもらっているもの。2013年現在58軒の登録があり、市役所でも定期的な水質調査を行っています。水の確保は災害時の大きな懸案事項ですが、近所に応急給水ポイントがあれば安心に繋がります。水源豊かな街ならではの標識に注目してみてください。



「震災時、井戸水提供の家」

震災時に必ず必要となる水資源。人力で活用できる井戸は、残していくべき設備です。

市内全域  
(問)03-3430-1111(市役所(代表))

SPOT 66